

科目名	養護原理		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

- 1 社会的養護される子どもの状況について理解する。
- 2 社会的養護の体系、児童福祉施設、及び里親について理解する。
- 3 児童福祉施設における養護の実際を理解する。
- 4 児童福祉施設の職員の役割などについて理解する。
- 5 児童観、施設及び里親養護観を養う。

内容

1	児童養護の概念
2	子どもの権利
3	養育
4	保護
5	治療的援助
6	自立
7	社会的養護の概要
8	乳児院
9	児童養護施設 1
10	児童養護施設 2
11	児童自立支援施設
12	情緒障害児短期治療施設
13	里親養護 1
14	里親養護 2
15	まとめ

評価

レポート40点、試験60点とし、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合には再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

児童の福祉を支える 社会的養護 坂本正路他 萌文書林

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ソーシャルワークの理論と方法について学習する。社会福祉士受験資格取得のための指定科目でもある。相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。相談援助における専門的援助関係、相談援助のための面接とその技術について理解する。専門的援助関係について理解し、例をあげて説明できるようになる。相談援助の面接とその技術について理解し、その概要を説明できるようになる。

内容

1	オリエンテーション
2	様々な実践モデルとアプローチ:心理社会的アプローチ
3	様々な実践モデルとアプローチ:機能的アプローチ
4	様々な実践モデルとアプローチ:問題解決アプローチ
5	様々な実践モデルとアプローチ:行動変容アプローチ
6	様々な実践モデルとアプローチ:課題中心アプローチ
7	様々な実践モデルとアプローチ:エンパワメントアプローチ
8	様々な実践モデルとアプローチ:ナラティブアプローチ
9	様々な実践モデルとアプローチ:危機介入アプローチ、実存主義アプローチ
10	相談援助における専門的援助関係:ラポール、バタナリズム、自己覚知
11	相談援助における専門的援助関係:感情転移・逆転移とスーパービジョン、自己の活用
12	相談援助のための面接技術:積極的傾聴、基本姿勢、プローブ
13	相談援助のための面接技術:リフレクション、質問、フィードバック
14	相談援助のための面接技術:面接の実際とその課題
15	まとめ

評価

中間試験30点、最終試験70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉養成講座8 社会福祉士シリーズ 相談援助の理論と方法』中央法規
その他授業中に指示。

科目名	精神保健福祉論		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：心理学を学ぶ上で、当事者の暮らしや支援の理解に欠かせない社会福祉の学修として位置付ける。人間が社会的な存在である以上、こどもから高齢者に至るすべてのライフステージで心身の健康が損なわれる機会がある。とりわけ精神疾患を患うことで社会的な不利がもたらされ、度重なる人生の危機にさらされやすい。社会的な制度の立ち遅れや社会的偏見の歴史から、その原因を探り、支援に係る専門職の役割を学ぶ。中でも第二次世界大戦後、歴史的に形成されてきた当事者こそが「その人」の専門家であるという視点を軸に据える。

科目の概要：まず、精神保健福祉の意義、精神障がい基礎知識、精神保健福祉の歴史的社会的背景、精神保健福祉制度の概要について理解する。ついで、生活の場及びライフサイクルにおける精神保健福祉の実践的役割や多様な支援手法を学ぶ。また、当事者ゲスト講師による地域での固有の実践を共有する。

- 学修の目標： 1 精神保健福祉の意義・制度及び歴史的形成過程の理解。
 2 我が国の精神障がい者の暮らしの実態の理解。
 3 当事者主体の支援視点の形成。

内容

1	精神保健福祉に課せられていること
2	精神保健福祉の歴史
3	精神疾患の理解（1）主な疾患とその対応
4	精神疾患の理解（2）統合失調症とその回復過程
5	精神保健福祉法の理解
6	精神保健福祉援助技術概論
7	生活保護法と退院促進事業の展開
8	家族支援とその課題
9	自殺・災害への精神保健福祉からの取り組み
10	事例にみる精神保健福祉士の役割と実践（1）
11	事例にみる精神保健福祉士の役割と実践（2）
12	当事者からのメッセージ（1）AAから
13	当事者からのメッセージ（2）大宮・やどかりの里から
14	課題提出・まとめ
15	振り返り

評価

授業目標に対する課題の提出20%、授業参加態度30%、最終回評価50% 60%以上合格 合格点に満たない場合に

は再試験を行います

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野末浩之「こころ・からだ・暮らし」精神障害者の理解と地域支援 萌文社

【推薦書】大熊一夫「精神病院を捨てたイタリア、捨てない日本」岩波書店

藤本豊編「よくわかる精神保健福祉」ミネルバ書房

野中猛「精神障害リハビリテーション」中央法規

参考図書は随時授業で紹介します

科目名	社会保障論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、主に社会保障の全体（基本）を学ぶものである。社会福祉士指定科目でもある。

講義では、社会保障の意義・目的・機能、社会保障の歴史（国内及び諸外国の動向）、負担と給付なあり方、社会保障制度改革の意味や方向性といった事がらを順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。 現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障の関係を含む）について理解することができる。 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程を含めて理解することができる。 社会保障制度の体系と概要について理解することができる。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

目次

- 1 人口動態の変化、少子高齢化
- 2 労働環境の変化（男女共同参画、ワークライフバランス等を含む）
- 3 社会保障の概念と範囲
- 4 社会保障の役割と意義
- 5 社会保障の理念
- 6 社会保障の対象
- 7 社会保障制度の発達（諸外国）
- 8 社会保障制度の発達（日本）
- 9 社会保障の財源
- 10 社会保障給付費
- 11 国民負担率
- 12 社会保険と社会扶助の関係
- 13 社会保険の概念と範囲
- 14 社会扶助の概念と範囲
- 15 授業全体の総まとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には再レポートを提出してもらう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト】阿部裕二編『社会保障 - 社会保障制度 社会保障サービス 第2版』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考書は、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	社会保障論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格の取得に必要となる科目で、主に社会保険制度の全体と個別内容を学ぶものである。社会保障論 を学んだ上での授業展開内容であり、社会福祉士指定科目でもある。

講義では、社会保険の意味・特色・体系、年金保険、医療保険、雇用保険、労働者災害補償保険、介護保険の制度的特徴とその問題点を順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。 社会保障(社会保険)制度の体系について理解することができる。

年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解することができる。 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解することができる。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

取数

- 1 社会保障(社会保険)制度の体系
- 2 年金保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 3 医療保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 4 介護保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 5 労災保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 6 雇用保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 7 社会福祉制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 8 生活保護制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 9 家族手当制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 10 年金保険制度の具体的内容(国民年金、厚生年金、各種共済組合の年金)
- 11 医療保険制度の具体的内容(国民健康保険、健康保険、各種共済組合の医療保険)
- 12 公的施策と民間保険制度の現状(民間の年金保険・医療保険・介護保険等)
- 13 諸外国における社会保障制度の概要(北欧、西欧)
- 14 諸外国における社会保障制度の概要(アメリカ)
- 15 授業の総まとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には再レポートを提出してもらう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】阿部裕二編『社会保障 - 社会保障制度 社会保障サービス 第2版』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考図書については、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	死生学		
担当教員名	小田桐 正毅		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「死生学」は「福祉」と何故関連するのか。「死生学」はまた、何故、「ライフやからだ」と関連するのか。本講義は上記の二点に集約される諸問題を検討することから、日常生活における「生き生きとしたライフやからだ」とはどのようなものであるのかを明らかにして、「日常生活における死生学」の諸相を開示しようとすることに焦点がある。将来、保健・医療・看護・福祉・介護の領域で仕事をしたいと考えている人、さらには多様な人間関係をよく考えてみたいと思っている人の基礎的な学習になって欲しいと願っている。

内容

1	本講義の視座と目的：「死生学」の二つの態様
2	「ヒトの生」と「ヒトの死」
3	「人の生」と「人の死」：人生観・生死観・死生観・ライフチャンス
4	「生と死」に対する諸見解 (1)：医学的判断と法的規定
5	「生と死」に対する諸見解 (2)：生物学的・物理学的・社会学的見解
6	「生命活動」と「死生学」(1)：ライフシステムとしての地球システム
7	「生命活動」と「死生学」(2)：「生命活動」の在り様/四つの刻印
8	「生命活動」と「死生学」(3)：「生命活動」の発現モデル
9	「からだ」と「死生学」(1)：「生命活動」と「からだ」
10	「からだ」と「死生学」(2)：「生命活動」と「人間」(ジンカン・ニンゲン)
11	「からだ」と「死生学」(3)：「肉体的生命」と「身体的生命」
12	「健康・病気」と「死生学」：「健康・病気」の四つの態様
13	「保健・医療・看護・福祉・介護」と「死生学」
14	「ライフチャンス」と「死生学」：「社会的・文化的生命」とその変様
15	「日常生活における死生学」の公理的命題

評価

レポート(最終講義日に提出、課題は提出日の一ヶ月前に公表する)。

評価方法の基準は、(1)講義内容を踏まえること、(2)順序立てて論じること、(3)自分の考え・見解を明記することであり、評価点配分は(3)が60%を占める。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】プリント使用。

【推薦書】(1)フィリップ・アリス『図説死の文化史』(福井憲彦訳、日本エディタースクール出版部)

(2)NHKスペシャル取材班&佐々木とく子、『ひとり誰にも看取られず』(阪急コミュニケーションズ)。

(3)週刊朝日編、『ひと、死に出あう』(朝日新書642)

その他、推薦書、参考図書等は、毎回の講義で適宜紹介する。

科目名	国際福祉論		
担当教員名	岡田 徹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

< 授業目標 >

社会福祉はこれまで1国家・1国民社会を前提にして生成展開されてきた。ここでは、この前提をいったん取り外し、「地球の見地に立った人間福祉」を考える。

< 科目の概要 >

地球世紀(Global century)と呼ばれる21世紀を生きる私たちにとって重要なキーワードはこの科目にある「福祉」と「国際化」である。ここでは社会福祉の中で最も創発的な領域である国際福祉の理論と実践を取り上げる。先進国型の「福祉」と途上国型の「開発」を包摂する概念として「人間福祉」を提起する。

内容

授業の進め方：毎回、講義レジュメを配布する。映像教材を用いる。毎授業時に小レポートを課す。

年間計画

1. なぜ今「国際福祉」か(意義)
2. 国際福祉とは何か(定義)
3. 国際福祉の生成展開過程(歴史)
4. 国際福祉問題 1(難民問題)
5. 同 上 2(HIV・エイズ問題)
6. 同 上 3(在日外国人問題)
7. 同 上 4(<南>の貧困問題)
8. 国際福祉の存立根拠(脱主権国家化、人間福祉/グローバルミニマム、地球市民社会)
9. 国際福祉の理論課題 1(福祉・SW.と開発の包摂統合)
10. 国際福祉の理論課題 2(「福祉と国家」の再定義)
11. 国際福祉の実践課題 1(バングラデシュの村落開発)
12. 同 上 2(バングラデシュの都市開発)
13. 福祉の人間的基礎 1 《美》
14. 福祉の人間的基礎 2 《魂》
15. まとめ

評価

ペーパーテスト(40点)、毎授業時のリアクション・レポート(30点)、平常点(30点)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】岡田徹他編 『コミュニティ福祉学入門』 有斐閣 2005年 2300円+税

【参考図書】仲村優一編 『国際社会福祉』第12巻 岡田徹著「国際社会福祉の歴史的動向」

科目名	福祉機器論		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人間福祉学科の専門科目であり、社会福祉展開科目である。

この授業では、福祉用具全般の取り扱い方と介護技術について知識と技術の双方を深めるものである。福祉用具にはいわゆる自助具から義肢・装具まで非常に幅広いものとなっている。特に身体介助で使用する福祉用具に関する知識と使用方法を学ぶ

授業は演習形式で行い、場所は介護実習室を利用する。福祉用具に関する知識は講義で行い、使用方法については実際に演習を行う。演習に際しては、学生を5名×8グループに分けて行う。技術の習得を目的とした授業であるから、知識と技術の双方を幅広く習得することが重要である。

- ・身体介護に使用する福祉用具を理解する
- ・自助具の使用法と介護技術の関連を理解する
- ・補装具・杖などの使用法と介護技術の関連を理解する
- ・トランスファーに使用する機器に関する知識と操作ができる

内容

1	オリエンテーション
2	福祉用具に関する法的な規定（1）介護保険法と福祉用具の歴史と種類について
3	福祉用具に関する法的な規定（2）障害者自立支援法と福祉用具の歴史と種類について
4	日常生活動作を補助する用具と使用方法 ・ベッド周辺
5	日常生活動作を補助する用具と使用方法 ・移動
6	日常生活動作を補助する用具と使用方法 ・排泄
7	日常生活動作を補助する用具と使用方法 ・着替え、身だしなみ
8	トランスファーを補助する用具と使用方法 さまざまなリフター
9	移動を補助する用具と使用方法 さまざまな車いす
10	移動を補助する用具と使用方法 杖・シルバーカー等
11	会話を補助する用具と使用方法 コミュニケーションツール
12	廃用症候群を予防する用具と使用方法 褥瘡の予防
13	廃用症候群を予防する用具と使用方法 拘縮・変形の予防
14	福祉用具の動向と課題
15	まとめ

評価

中間試験（資料等持ち込み可）、定期試験の結果（40点×2回）、レポート（10点×2回）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じてプリント配布する。推薦書はその都度紹介する。

科目名	リハビリテーション論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間福祉学科専門科目の社会福祉基礎・展開科目に位置づけられている。

科目の概要：

リハビリテーションの基盤となる理念は、人権の保障であり、心身に障がいのある人々が残存能力を發揮し、潤いのある豊かな生活を実現することである。リハビリテーションの理念、定義、目的、範囲、対象などリハビリテーションに関する基礎的事項について学習し、ノーマライゼーションの原理やQOLに視点をおき、リハビリテーションを通して機能回復を図るばかりではなく、人間らしく生きる権利の回復も図ることについて理解を深めることを目的とした講義を展開する。心理面におけるリハビリテーションについても触れる。

学修目標：

1. リハビリテーションの理念が理解できる。
2. 障がいの受容プロセスが理解できる。
3. ライフサイクルにおける各期のリハビリテーションの意義とQOLが理解できる。
4. 心理的な側面でのリハビリテーションの役割が理解できる。
5. 学生である今の立場からリハビリテーションについて果たせるものが何であるのか説明できる。

内容

1	リハビリテーションの理念
2	リハビリテーションの目的と対象
3	障がいとリハビリテーション
4	障がいの受容過程とQOL
5	死別とグリーフワーク
6	ライフサイクルとリハビリテーション
7	子どものリハビリテーション 心身障がい児の基礎知識
8	子どものリハビリテーション 脳性麻痺
9	子どものリハビリテーション 広汎性発達障害と学習障害
10	成人期・老年期の人のリハビリテーション 脳血管障害
11	成人期・老年期の人のリハビリテーション 寝たきりと廃用症候群
12	成人期・老年期の人のリハビリテーション 認知症
13	施設におけるリハビリテーション
14	地域におけるリハビリテーション
15	リハビリテーションのまとめ

評価

授業への参加状況（20点）、レポート（20点）、筆記試験（60点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】硯川眞旬・橋本隆・大川裕行 編 『学びやすいリハビリテーション論』第2版 金芳堂

【推薦書】竹内孝仁編著 『リハビリテーション概論』 建帛社 494.79/T

佐々木日出男・津曲裕次監 『リハビリテーションと看護 その人らしく生きるには』 中央法規 492.9/R

科目名	ユニバーサルデザイン論		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 日常の道具の使いやすさを対象にする福祉機器論よりも、対象を情報機器に分野を絞った科目になる。また、心理学では人間を対象にするが、ユニバーサルデザインでは、道具と人間の両方を視野に入れる点が、心理学と異なる。

科目の概要 情報社会が発展すればするほど、高齢者や障害者が取り残されてしまう、デジタルデバイドと言われる現象が問題になってくる。それゆえに、情報弱者となりやすいユーザのために、情報環境を整備する必要がある。本科目では、特にマニュアルを取り上げ、有効なマニュアルの条件について考察したい。

学修目標 わかりやすく、読んでみたくなる、具体的なマニュアルを作成したい。実際に作成する過程で、わかりやすい表現をすることが難しいことを理解してほしい。

内容

1	オリエンテーション
2	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (1) 情報の部分性
3	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (2) 言語
4	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (3) 記憶
5	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (4) 情報検索
6	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (5) 視覚
7	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (6) 聴覚
8	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (7) 触覚
9	情報機器を使うことの難しさ (1) ヒューマンエラー
10	情報機器を使うことの難しさ (2) ユーザが自分の責任にしがちである現状
11	情報機器を使うことの難しさ (3) メニュー、アイコン、専門用語
12	情報機器を使うことの難しさ (4) 学習の停滞
13	情報機器を使うことの難しさ (5) プロダクションパラドックス
14	マウスやキーボードの使い方を説明する、実際のマニュアル作成をする
15	まとめ

評価

毎回提出してもらってレポート、150点満点 (15回X10点満点) で、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

プリントを配布する

科目名	乳幼児・児童の心理学		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生涯発達領域 専門科目

科目の概要

乳幼児期は、人生の基礎となる大切な時期であり、さまざまな側面において急速な変化がみられる。身体・認知・情緒などの諸側面から発達の過程を学び、乳幼児に対する理解を深め、臨床や実践活動のための基礎知識を身につけることを目標とする。また、生まれたばかりの状態から「人になっていく」過程を知ることによって、乳幼児期が人の一生のなかでどのような意味をもつのか考えるきっかけとなることを目指す。講義形式の授業とするが、適宜映像視聴やディスカッションなどを取り入れる予定。

学修目標

- ・乳幼児期の身体発達について説明できる
- ・乳幼児期の知覚と認知の発達について説明できる
- ・乳幼児と養育者の関係の発達について説明できる
- ・幼児期の仲間関係や社会性の発達について説明できる

内容

1	乳幼児期とは
2	新生児の能力
3	身体・運動の発達
4	認知の発達
5	個性の発生
6	「自己」への気づき
7	愛着と親子関係
8	愛着と親子関係
9	他者との関係の発達
10	情緒と感情の発達
11	言語とコミュニケーションの発達
12	遊びと想像性
13	発達障害・発達診断
14	年齢別の発達の様相
15	まとめ

評価

平常点20点、授業時の小テスト・小レポート30点、期末試験50点。合格点60点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 繁多進「乳幼児発達心理学」福村出版

[推薦書] 柏木恵子他「新版発達心理学への招待」ミネルヴァ書房

科目名	障害者の心理学		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：障害のある人の機能的制約は、環境によって異なるため、環境因子の一つとして、適切な支援を行うことは極めて重要です。本科目は、これまで学んできた知見を踏まえて適切な支援を行うための学習を通し、自らの生き方を考える科目です。

科目の概要：各障害の診断基準および心理学的特徴に関して学習します。各障害の特徴に配慮した支援の在り方について受講者とともに考えていきます。

学修目標：

- 1．障害の理解。
- 2．各障害の診断基準及び心理学的特徴の理解。
- 3．上記を踏まえた上での各障害への対応及び支援の理解

内容

1	障害とは
2	自閉症 [※] ・外 [※] 障害者の心理学的特徴と支援（1）
3	自閉症 [※] ・外 [※] 障害者の心理学的特徴と支援（2）
4	学習障害者の心理学的特徴と支援
5	注意欠陥/多動性障害者の心理学的特徴と支援
6	知的障害者の心理学的特徴と支援
7	視覚障害者・聴覚障害者の心理学的特徴と支援
8	言語障害者の心理学的特徴と支援
9	肢体不自由者・重度重複障害者・病弱者の心理学的特徴と支援
10	精神障害者の心理学的特徴と支援
11	各障害者の心理学的特徴と支援のまとめ
12	さまざまな立場の支援の方法
13	グループ発表（1）
14	グループ発表（2）
15	まとめ

評価

日常点（課題提出・小テスト・授業態度・発表など）40％と、期末テストの成績60％を成績評価の対象とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】井澤信三・小島道生編著『障害児心理入門』

【参考図書】 【その他】 必要に応じて随時授業で紹介します。

科目名	中高年の心理学		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格

本科目は、現在の我が国における、中高年期の人々が直面している諸課題について、その問題を自らに引き寄せて、実感を持った「想いを馳せる」作業を行うように設計されている。特に、女子学生が受講することを前提に、女性であるからこそ、これから来る自らの中年期と高齢期の生活を、どのように過ごし得るのかに関し、将来的に有用な手掛かりになることを目指して開講する。

2. 科目の概要

現在の我が国には、さまざまな不利益を被りながら生活している人々が存在する。その不利益の原因は、経済的なものであったり、何らかの障害を心身に持つことであったり、特定の視点からみた場合に少数派であることであったりと多様である。本科目は、このような前提にたち、中年期と高齢期に、様々に直面する課題について、具体的な題材を手掛かりに、自らの在り方を内省する作業を通し、その現実への対処方策を、それぞれの未来に向けて獲得することを目的とする。

3. 学修目標

本科目は、1) 中年期と高齢期の特徴的な変化が社会的な不利益に結びつく構図とはどのようなものであるのか？、2) そのような不利益を被りながら生活する中高年者本人はどのような想いをもちながら生活しているのか？、3) 社会的な不利益を被りがちな中高年者に対して我々が専門家としてまた市民として成し得ることは何なのか？、の3点の獲得を、学修の目標とする。

内容

我が国で起きているさまざまな「中高年者に関連した社会問題」を題材として、その内容に対する自らの有り様について考えることから、学習をスタートする。学習は、まず、題材に関するグループワークの形式により行う。次に、グループワークにより得た「気づき」を前提に、関連した基礎知識・専門知識を講義形式により学習する。なお、各開講回別に取り上げる題材の内容は以下の通りとする。

第1回 ガイダンスと「中高年期の生活の概要」：我が国の中高年期の生活の概要

第2回 「幼児虐待・児童虐待と自分」：児童虐待に苦しむ加害者の痛み

第3回 「幼少期に発病することと支え合う想い」：小児病棟における子ども同士のかかわりあい

第4回 「児童労働と自分」：途上国に於ける児童労働の現実と家族内での親に対する役割期待

第5回 「優性思想と自分」：優性思想とハンセン病回復者に対する断種手術の現実

第6回 「パートナーシップと自分」：ハンセン病回復者の家族へのあり方

第7回 「貧困と教育と自分」：貧困により生ずる教育機会の格差

第8回 「家族との関係と役割期待」：「理想の家族幻想」に苦しむ日常

第9回 「障害児を出産することと自分」：障害を持つ子どもを出産した母親の嘆き

第10回 「里親制度と血縁の意味と自分」：自動的に血縁対象を愛するようになるものなのか？

第11回 「女性に対する差別と自分」：インドの中流階級における「結婚持参金殺人」の現実

第12回 「我が国の老老介護の現実と自分」：我が国の介護現場の現実

第13回 「代理出産ビジネスの現実と新たな生命を誕生させることの意味」：米国における代理出産

第14回 「戦争と自分」：現代世界の紛争・内戦・戦争の実質的な担い手の「少年兵」

第15回 まとめ：本講義での学習内容のまとめを行った上で、学習の習熟を測る「期末レポート（小論文テスト）」を講義時間内に実施する。

評価

成績は、平常点と期末レポートにより評価する。平常点とは、講義中の『グループワークへの取り組み姿勢』と、それを前提とした毎回の小レポート（講義内容への習熟を測る小論文）の内容を指す。併せて、講義最終回に、期末レポートとして、小論文の作成を求める。成績評価の基準は、合計100点満点を、『平常点(グループ学習への取り組み状況や毎回の小レポート)』が70点(「5点/回」×14講義回=70点)、『期末レポート(最終講義回に実施する小論文テスト)』が30点、の構成にて配点し、それを基準として評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。なお必須ではないが、推薦図書として、以下の雑誌に事前に目を通しておくことが望まれる。

「Days Japan 2008年6月号(特集:処分されるペットたち)」

「Days Japan 2008年9月号(特集:結婚させられる少女たち)」

「Days Japan 2009年5月号(シオラレオネ出産の悲劇ほか)」

「Days Japan 2009年10月号(特集:カンボジア地雷探知犬が救う命)」

科目名	家族心理学		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

現在、日本の家族は少子化、高齢化、虐待、不登校、ホームレス、孤独死などなど多くの問題を抱えている。このような問題に対して、家族はどう立ち向かっていけばいいのだろうか。

家族は一定のルールのもとで相互作用や日常行動を行っている。家族は人間関係の家族システムであるともいえる。

一方個人が主体となる個人心理学的観点からすると、個人は家族システムのなかではどのように変容していくのであろうか、また、変容せざるをえないのだろうか。

現代家族の抱えている問題を明らかにし、次に家族システム論について考え、さらに個人心理学について説明する。最後に家族システム論と個人心理学とを融合させて新しい家族心理学を提示していくことなどを目的とする。

内容

1. 家族心理学の役割
2. 家族人生周期
3. 家族システム論
4. 家族内コミュニケーション
5. 家族関係の心理査定
6. 家族心理の深層構造
7. 社会の中の家族
8. 個人の中の家族イメージ
9. 家族療法の理論
10. 家族療法の技法
11. 家族療法の技法
12. 家族療法の技法
13. 夫婦療法の理論と技法
14. 家族療法の実際
15. 家族心理学の未来

評価

授業中の小レポートを30点、期末のレポートを70点。以上の合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

亀口憲治 （20110）

改訂新版 家族心理学と特論

放送大学教育振興会

科目名	演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査（調査票作成、フィールドワークなど）の実施

構成の明示（あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など）

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査（調査票作成、フィールドワークなど）の実施

構成の明示（あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など）

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査（調査票作成、フィールドワークなど）の実施

構成の明示（あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など）

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査（調査票作成、フィールドワークなど）の実施

構成の明示（あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など）

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査(調査票作成、フィールドワークなど)の実施

構成の明示(あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など)

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査(調査票作成、フィールドワークなど)の実施

構成の明示(あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など)

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査（調査票作成、フィールドワークなど）の実施

構成の明示（あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など）

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示。

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目の1つ「相談援助の理論と方法」である。「福祉課題を抱えた者からの相談への対応や、これを受けて総合的かつ包括的にサービスを提供することの必要性、その在り方等に係る専門的知識」「福祉課題を抱えた者からの相談に応じ、利用者の自立支援の観点から地域において適切なサービスの選択を支援する技術」「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」「専門職としての高い自覚と倫理の確立や利用者本位の立場に立った活動の実践」の知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。「ソーシャルワーク論 から 」を踏まえて本科目を理解する必要があり、「相談援助演習 」とも関連性がある。学修目標は、相談援助におけるアウトリーチ、社会資源の活用・調整・開発や多職種・多機関との連携を含むネットワークングについて理解する。また集団を活用した相談援助について理解する。

内容

1	ソーシャルワークについて
2	地域福祉総合支援体制
3	アウトリーチの意義と目的
4	アウトリーチの方法と留意点
5	グループを活用した相談援助
6	自助グループを活用した相談援助
7	コーディネーションについて
8	ネットワークングについて
9	ソーシャルサポートネットワークについて
10	地域ケアシステムについて
11	社会資源の活用・調整・開発の意義と目的
12	社会資源の活用・調整・開発の方法と留意点
13	事例に基づくサービス開発の展開方法について
14	ソーシャルアクションについて
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(30%)と、学修目標に基づく国家試験形式のペーパーテスト(60%)、通常の授業態度(10%)、三分の二以上出席することで評価を受けることができ、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法 中央法規出版株式会社

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	佐藤 陽、栗原 直樹、大山 博幸、横山 貴美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

相談援助におけるソーシャルワークの理論と方法のうち、以下の内容について、その意味や意義、留意点などを理解したうえで、具体的な事例検討を通して相談援助の実際を学修する。

- ・スーパービジョン
- ・相談援助と個人情報の保護
- ・相談援助における情報通信技術（IT）の活用
- ・権利擁護活動

内容

1．相談援助におけるソーシャルワークの理論と方法について理解する。

- 1) スーパービジョンの意味、意義
- 2) 個人情報の保護の意義と記録の在り方
- 3) 情報通信技術（IT）の活用の意義と実際
- 4) 権利擁護活動の意味、意義と実際
- 5) まとめ

2．1．を踏まえたうえで、実際の事例を通して、相談援助の在り方について考える

- 6) ~ 9) …… 困難事例＜1＞の検討
- 10) …… 困難事例＜1＞評価
- 11) ~ 14) …… 困難事例＜2＞の検討
- 15) …… 困難事例＜2＞評価

評価

レポート（2回で50点）と参加型授業における自己評価点（25点）、他者評価点（25点）の合計点によって評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「ソーシャルワークの理論と方法 ・ 」中央法規出版

科目名	保健医療サービス論		
担当教員名	中島 園恵、横山 貴美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

従来は病気と貧困の悪循環は当たり前のように見られた。国民皆保険となり、この状態は軽減されてはいるが、社会の高度化、複雑化や疾病構造の変化のなかで病気を原因とした生活困難に苦しむ国民は多い。また医療も治療だけでなく、広く健康増進やリハビリテーションも視野にいれた、幅の広い内容となっている。そこで保健・医療サービスの支え手としても医師ばかりでなく、多くの関連専門職の連携が必要となっている。この授業では将来ソーシャルワーカーになる学生に対して、病気・健康に関連した国民生活の実態とこれに対する医療・保健サービスの状況や方向性を理解させることを目的とし、主に次の2点の内容を学ぶ。

- 1、相談援助活動において必要となる医療保険制度(診療報酬に関する内容を含む。)や保健医療サービスについて理解する。
- 2、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。

内容

保健医療と法制度の歴史

医療保険制度の現状と課題 その1～その3

医療保険の「機能と歴史

日本の医療保険の特徴と問題

医療保険制度と医療保障

診療報酬 その1～その2

日本の診療報酬制度の特色

診療報酬単価と決定の仕組み

保険診療と自由診療、混合診療

歯科診療報酬制度とその課題

保健医療サービスの概要 その1～その3

健康日本21の背景

高齢者の保健医療対策

生活習慣病の予防と介護予防対策

保険医療専門分化と連携

保健医療サービスにおける専門職の役割と実際 その1～その2

各専門職の役割と機能分担

医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、助産師、理学療法士、作業療法、言語聴覚士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー等

保健医療サービス関係者との連携と実際

がん、慢性疾患、難病への対応と保健医療福祉

高齢者の主な疾患と保健医療福祉

地域における保健医療福祉の現状と課題

評価

授業態度および試験で評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 社会福祉士シリーズ17 『保健医療サービス』 弘文堂

科目名	権利擁護と成年後見制度		
担当教員名	田中 満枝		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

介護保険の制度と両輪の輪として制定された成年後見制度は契約時代における新たな権利擁護の制度として非常に重要な役割を担っている。

成年後見制度の概要（後見人等の役割を含む）について相談援助活動における権利擁護の視点から理解する。

成年後見人の権限や義務、活用の実際なども含め、成年後見制度の実際について理解する。

認知症や知的障害で日常生活への支援が必要な方や、虐待などの権利侵害にあった方々に対する権利擁護活動の実際について成年後見制度との関連も含めて理解する。

内容

1	第1章 第1節 （権利擁護にかかわる）相談援助と法
2	第1章 第2節 日本国憲法の理解
3	第2章 第1節～第3節 成年後見（保佐・補助）制度の理解
4	第2章 第4節 申し立ての流れ
5	第2章 第5節 任意後見制度
6	第2章 第6節・第7節 後見人の義務と責任・成年後見制度の最近の動向と課題
7	第5章 権利擁護にかかわる組織・団体
8	第6章 権利擁護にかかわる専門職の役割
9	第7章 成年後見制度の実際
10	第1章 第3節 行政法の理解
11	第1章 第4節 民法の理解
12	第1章 第5節 社会福祉関連法の理解
13	第3章 日常生活支援事業
14	第4章 成年後見制度利用支援事業
15	まとめ

評価

筆記試験 50点 レポート50点 試験・レポートを合計し評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：新・社会福祉士養成講座第19巻「権利擁護と成年後見制度 第2版」 中央法規

参考書：社会福祉士池田恵利子 いけだ後見支援ネット編「エピソードで学ぶ成年後見人－身上監護の実際と後見活動の視点－」民事法研究会

社会福祉6法（他の教科で使用するもので可）

科目名	更生保護制度		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、社会福祉士指定科目である。主に、更生保護制度の全体像を学ぶものである。「犯罪と福祉」という重い課題であるが、社会的排除が端的に現れやすい人権問題領域であるだけに、「人権と社会正義」を掲げる社会福祉が果たすべき役割は大きい。

講義では、司法福祉、刑事司法、更生保護法制、その歴史的展開、機構、手続き、対象者、担い手、等の事がらを順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。 司法福祉（修復的司法を含めて）・刑事司法・更生保護制度の全体的なつながりを理解することができる。 犯罪を行ってしまった人への社会復帰支援の意味とその重要性を理解することができる。 更生保護制度とその運用全般を理解することができる。

内容

1	刑事司法、更生保護とは
2	更生保護法とは
3	更生保護の歴史
4	更生保護の対象者と手続き - 非行少年
5	更生保護の対象者と手続き - 犯罪をした人
6	更生保護の具体的方法 - 仮釈放、保護観察等
7	更生保護の具体的方法 - 生活環境の調整、更生緊急保護等
8	更生保護制度の実施機構及び組織
9	更生保護制度の担い手
10	医療観察制度とは
11	他害行為を行った精神障害のある人の社会復帰支援の方法
12	高齢者・障害のある犯罪者の保護
13	就労支援の方法と課題
14	更生保護の今後の課題
15	全体のまとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、再レポートを提出してもらう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】森 長秀編『社会福祉士シリーズ20 更生保護制度 - 司法福祉 - 』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考図書は、必要に応じ、授業で随時紹介する。

科目名	心理学理論と心理的支援		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

[ねらい]

- ・心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。
- ・人の成長・発達と心理の関係について理解する。
- ・日常生活と心の健康との関係について理解する。
- ・心理的支援の方法と実際について理解する。

[科目の概要]

人の心理学的理解、人の成長・発達と心理、日常生活と心の健康、心理的支援の方法と実際

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

社会福祉・介護福祉の専門職として必要な心理学理論と心理的支援方法について習得する。

内容

1. 人の心理学的理解（その1）：その生理学的基礎、行動のメカニズム（欲求と動機づけ）
2. 人の心理学的理解（その2）：情動・情緒、学習のメカニズム（条件づけ）
3. 人の心理学的理解（その3）：学習のメカニズム（モデリング、洞察学習）、学習の法則
4. 人の心理学的理解（その4）：個人差の理解（人格・性格）
5. 人の心理学的理解（その5）：深層心理の理解
6. 人の心理学的理解（その6）：集団行動、社会的適応
7. 人の成長・発達と心理（その1）：発達段階とその心理的特質
8. 人の成長・発達と心理（その2）：各発達段階の課題（発達課題）
9. 日常生活と心の健康（その1）：心の健康と不健康、
10. 日常生活と心の健康（その2）：各種
11. 心理的支援の方法と実際（その1）心理検査の概要
12. 心理的支援の方法と実際（その2）カウンセリングの基礎技法（傾聴の技術）
13. 心理的支援の方法と実際（その3）カウンセリングの基礎技法（情報提供・助言の技術）
14. 心理的支援の方法と実際（その4）認知行動論的アプローチ
15. まとめ

授業はプリントを配布し、講義形式で行う。そして、授業中に質問を發して、それに対して挙手の形で答えるという質問応答の方法を取り入れていく。

また、毎回の授業で、その時間に学ぶべき事項の理解を深めるべく質問を發し、配布された用紙に解答して提出してもらう。なお、これが平常点の資料となる。

評価

平常点（15点） 筆記試験（85点） 60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】江川? 成（編著）『カウンセリング入門』 北樹出版

国分康孝『カウンセリングの技法』 誠信書房

鹿取廣人・杉本敏夫（編）『心理学 第2版』 東京大学出版会

【参考図書】

推薦書・参考図書については、これ以外にも授業で提示する。

科目名	社会福祉施設経営論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、NPOなど)について理解する。
- 2 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。
- 3 福祉サービスの経営と管理運営について理解する。

内容

1	福祉サービスにおける組織・経営
2	福祉サービスと制度
3	福祉サービスに関わる組織や団体 1 法人とは
4	福祉サービスに関わる組織や団体 2 社会福祉法人
5	福祉サービスに関わる組織や団体 2 社会福祉法人
6	福祉サービスに関わる組織や団体 3 NPO等その他の法人
7	福祉サービスの組織と経営の基礎理論 1
8	福祉サービスの組織と経営の基礎理論 2
9	福祉サービスの管理運営の方法 1 サービス管理
10	福祉サービスの管理運営の方法 2 人事管理
11	福祉サービスの管理運営の方法 3 労務管理
12	福祉サービスの管理運営の方法 4 会計と財務
13	福祉サービスの管理運営の方法 4 会計と財務
14	福祉サービスの管理運営の方法 5 情報管理
15	まとめ

評価

レポート40点、筆記試験60点とし合計60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合には再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

新・社会福祉士養成講座「福祉サービスの組織と経営」中央法規

科目名	女性と福祉		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

少子高齢社会・人口減少社会となったわが国において、社会保障・社会福祉は、一部の恵まれない人々への恩恵ではなく、あらゆる人々が生活の安定・安心を実現するために、人生のどこかで関わり、利用するものとなっている。福祉の利用者や福祉サービスを担う人々のイメージも大きく変化した。その結果、社会全体の福祉観も変わりつつある。しかし、社会的文化的性差（ジェンダー）が生活問題の発生に影響していることは変わらない。ジェンダー視点をもって福祉の多様な側面を検討することにより、等身大の福祉社会のあり方を考える。学修の目標は、講義内容を自らの生き方と関連付けて理解し、社会保障・社会福祉の制度リテラシーの基本とすること。

内容

1	少子高齢時代の持続可能な社会のビジョンとは
2	男女共同参画に関する政策・制度の変化とその影響
3	社会保障・福祉サービスに関する政策・制度の変化とその影響
4	家族と労働の変化 - ワークライフバランス
5	児童の環境と出産・育児支援
6	母子・父子家庭の抱える問題
7	高齢者の自立と介護問題
8	障害者（児）の自立支援に関する問題
9	新たな貧困問題とホームレス
10	在日外国人の生活問題
11	売買春・セクハラ・DVの解決
12	福祉の仕事と教育
13	ボランティア・市民活動・NPOの役割
14	福祉を創りだした女性たち
15	レポートの報告と講評

評価

意見の発表・討議への参加（20点）、期末レポート（80点）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：杉本貴代栄『ジェンダーで読む21世紀の福祉政策』有斐閣選書

春日キスヨ『介護とジェンダー』家族社 369.26/K

広井良典『持続可能な福祉社会』岩波新書 364/H

中西正司・上野千鶴子『当事者主権』岩波新書 369.1/N

杉本貴代栄『女性化する福祉社会』勁草書房

科目名	ボランティア・コーディネーション		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、社会福祉展開科目として福祉に関する「ボランティア」を基本としてとらえる。他の科目として「市民活動論」と関連性がある。講義は、ボランティアに関する知識と推進するための技術としてコーディネーション力を、具体的実践事例を交えながら理解することを内容とする。学修目標は、1.ボランティアについて理解する。2.ボランティアコーディネーションについて理解する。3.ボランティアコーディネーターについて理解する。

内容

1	はじめに ボランティア-自らの学びの経験をもとに-
2	豊かに生きていく上で必要なボランティア
3	ボランティアとは何か
4	ボランティアの理解1
5	ボランティア活動の実際
6	ボランティアの理解2
7	ボランティア活動の意味
8	ボランティアのとらえ方1
9	ボランティアのとらえ方2
10	ボランティア活動の課題
11	コーディネーションについて
12	ボランティアコーディネーションの理解
13	ボランティアコーディネーションとボランティアコーディネーター
14	ボランティアセンターとボランティアコーディネーター
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(30%)、学修目標に基づく試験(60%)、通常の授業態度(10%) 60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト

日本ボランティアコーディネーター協会編『市民社会の創造とボランティアコーディネーション』筒井書房

科目名	市民活動論		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

選択科目

市民が行う自由な社会貢献活動を促進する法律として特定非営利活動促進法が成立したのは1998年である。多様な生活問題の解決にあたって民間非営利団体（NPO・NGO）の貢献する範囲は広がっている。統計などによって見えている部分のごくわずかであるということから「氷山のようなセクターである」といわれた民間非営利領域、およびその主体である民間非営利団体について、さまざまな議論や実践とともに研究も深まりつつある。多様な非営利団体を対象に、現在の私たちの社会におけるその実態と可能性を検討する。講義だけでなく、受講生全体の参加による議論・検討を重視する。

民間非営利団体の現状をふまえて、社会における市民の役割を理解する。

内容

1	生活主体と公共私領域 - NGO・NPOの誕生
2	NPOと非営利革命
3	NPOセクターの国際比較
4	ミッションとプロフィット
5	わが国のNPOを取り巻く制度と環境
6	NPOの活動事例 - 教育・文化・スポーツの分野
7	NPOの活動事例 - 医療・福祉の分野
8	NPOの活動事例 - 地域振興・環境問題の分野
9	NPOの活動事例 - 人権・平和・国際協力の分野
10	NPOの活動事例 - NPOの支援を行なうNPO
11	NPOの多様性とその課題
12	NPOにおける寄付とボランティア
13	NPOのマネジメント
14	NPOの展開と市民社会の可能性
15	レポート報告と講評

評価

事例発表・討議への参加態度（3割）、期末レポート（7割）として採点し、60点以上を合格とする。再試験は行わない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：NPO研究フォーラム『NPOが開く新世紀』清文社 335.8/N

山内直人編『NPOデータブック』有斐閣 335.8/Y

大畑裕嗣他『社会運動の社会学』有斐閣選書

目加田説子『行動する市民が世界を変えた』毎日新聞社

科目名	福祉と倫理		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

ケアリングの理論とそれに関連する思想の理解を深める。対人援助職の基本姿勢、態度の形成を目的とする意味では本授業は社会福祉基礎科目として位置づけられる、本科目は社会福祉の ケア及びケアリングの概念について理解を進め、対人援助職におけるケア及びケアリングの思想の意義を探究していくことをねらいとする。また近年注目されているスピリチュアリティの概念をはじめとした超越性とケアリングとの関連、及びケアリングと癒し（ヒーリング）の関連についても考察していく。 ケアリング概念について説明記述でき、ケアリングそれに関連するテーマや思想的背景について独自の意見を述べるができる。

内容

1	オリエンテーション
2	各定義・概念の整理：ケアの語源、関連する概念
3	根源的なケア経験、ケアの動機（ロロ・メイ、鷺田を例として）
4	メイヤロフのケアリング論（概要）
5	メイヤロフのケアリング論（展開1）
6	メイヤロフのケアリング論（展開2）
7	事例から学ぶケア1：『プロフェッショナル 認知症ケア』を観て
8	ターミナルケア：広井のケア学
9	ターミナルケア：キューブラロス、ミンデルの事例から
10	ケアリングとヒーリング（概要）
11	ケアリングとヒーリング（展開1）：映画『千と千尋の神隠し』から
12	ケアリングとヒーリング（展開2）：ケイローンの神話から
13	対人援助職におけるケアの実践：基本的介護技術の実践、ホリスティック福祉への試論
14	ケアリングとスピリチュアリティ：ホリスティック理論との関連、WHOでの議論
15	授業のまとめ

評価

授業中のミニレポート30点、最終レポートもしくは試験70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】は使用しない。資料は授業中に配布

【推薦書】

メイヤロフ『ケアの本質』ゆみる出版

モンゴメリー『ケアリングの理論と実践 コミュニケーションによる癒し』医学書院

佐藤学『学びと死と再生』太郎次郎社

谷山洋三 『仏教とスピリチュアルケア』 東方出版

科目名	手話		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、主に福祉や介護の現場で働く人にとって必要な、聴覚に障害を持った人を理解したり意思の疎通を図るための知識や技術を学ぶためのものです。

科目の概要

聴覚障害というものを医学的、福祉的、社会的、心理的、文化的側面から見つめ、理解を深めます。

手話を中心に筆談、読唇、補聴器、空書き、補聴器、てのひら書き、触手話、指点字などのコミュニケーション手段について学びます。

学修目標

手話技術については、NPO手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語と例文を理解し、自己紹介や日常生活における簡単なやり取りができるようにします。

また、相手の聴力や、失聴年齢などに合わせたコミュニケーションを選択し、日常生活場面で使用できることを目指します。

内容

1	あいさつの表現
2	家族の表現
3	時制の表現
4	指文字(ア行～サ行)
5	名前の表現
6	指文字(タ行～ハ行)
7	趣味の表現
8	指文字(マ行～ワ行)
9	中途失聴者・難聴者のコミュニケーション
10	盲ろう者のコミュニケーション
11	地名の表現
12	自己紹介
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による自己紹介形式の実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、通常の授業態度(10%)により評価を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書 実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/J

科目名	相談援助演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」(本学科目名「ソーシャルワーク論 から 」)との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。学修目標は以下の5点である。1. 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について理解する。2. 地域福祉の計画策定手法を理解する。3. ネットワーキングを理解する。4. 社会資源の活用・調整・開発を理解する。5. サービス評価について理解する。

内容

1. 地域をとらえる-現状と課題-
2. 地域福祉を推進するソーシャルワーカー1
3. 地域福祉を推進するソーシャルワーカー2
4. アウトリーチとニーズ把握の方法
5. 地域の社会資源
6. 地域福祉に関する計画づくりの意義
7. 計画策定に向けた住民参加の手法
8. 近隣における支えあい実践事例-ジェノグラム、エコマップ作成-
9. 個別・地域アセスメント
10. ネットワーキング
11. 社会資源の活用・調整
12. 社会資源の開発
13. 専門職の支援視点と留意点
14. サービス評価
15. まとめ

評価

各回ごとの課題作成(20%)、演習における発言及び口頭発表(20%)、学修目標に関するレポート(50%)と、通常の授業態度(10%)、五分の四以上出席することで評価を受けることができ、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト

使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

参考図書

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 ・ 」中央法規
その他随時教室で紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」(本学科目名「ソーシャルワーク論 から 」)との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。学修目標は以下の5点である。1.地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について理解する。2.地域福祉の計画策定手法を理解する。3.ネットワーキングを理解する。4.社会資源の活用・調整・開発を理解する。5.サービス評価について理解する。

内容

- 1.地域をとらえる-現状と課題-
- 2.地域福祉を推進するソーシャルワーカー1
- 3.地域福祉を推進するソーシャルワーカー2
- 4.アウトリーチとニーズ把握の方法
- 5.地域の社会資源
- 6.地域福祉に関する計画づくりの意義
- 7.計画策定に向けた住民参加の手法
- 8.近隣における支えあい実践事例-ジェノグラム、エコマップ作成-
- 9.個別・地域アセスメント
- 10.ネットワーキング
- 11.社会資源の活用・調整
- 12.社会資源の開発
- 13.専門職の支援視点と留意点
- 14.サービス評価
- 15.まとめ

評価

各回ごとの課題作成(20%)、演習における発言及び口頭発表(20%)、学修目標に関するレポート(50%)と、通常の授業態度(10%)、五分の四以上出席することで評価を受けることができ、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト

使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

参考図書

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法」中央法規
その他随時教室で紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」(本学科目名「ソーシャルワーク論 から 」)との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。学修目標は以下の5点である。1.地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について理解する。2.地域福祉の計画策定手法を理解する。3.ネットワーキングを理解する。4.社会資源の活用・調整・開発を理解する。5.サービス評価について理解する。

内容

- 1.地域をとらえる-現状と課題-
- 2.地域福祉を推進するソーシャルワーカー1
- 3.地域福祉を推進するソーシャルワーカー2
- 4.アウトリーチとニーズ把握の方法
- 5.地域の社会資源
- 6.地域福祉に関する計画づくりの意義
- 7.計画策定に向けた住民参加の手法
- 8.近隣における支えあい実践事例-ジェノグラム、エコマップ作成-
- 9.個別・地域アセスメント
- 10.ネットワーキング
- 11.社会資源の活用・調整
- 12.社会資源の開発
- 13.専門職の支援視点と留意点
- 14.サービス評価
- 15.まとめ

評価

各回ごとの課題作成(20%)、演習における発言及び口頭発表(20%)、学修目標に関するレポート(50%)と、通常の授業態度(10%)、五分の四以上出席することで評価を受けることができ、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト

使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

参考図書

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法」中央法規
その他随時教室で紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。授業内容は他の相談援助演習の科目とも関連している。、本演習は原則社会福祉実習後に行い、実習科目との関連も重視しつつ、相談援助の知識と技術の総合的・統合的な学習を目指す。

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。

自らの主要な実習経験を振り返り意味づけることができる。自らの主要な実習経験をロールプレイや自己リフレクション記述を用いて再構成しとらえなおすことができる。実習経験の振り返りから得た自らの個別的な意味づけや知見を、既存の相談援助あるいは社会福祉一般の知識や技術と関連してとらえなおし考察することができる。

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

1	オリエンテーション
2	ロールプレイを使った実習場面の再構成 1（ねらいと手順の説明）
3	ロールプレイを使った実習場面の再構成 2
4	ロールプレイを使った実習場面の再構成 3
5	自己リフレクション記述による中心的意味や知見の抽出のワーク 1（ねらいと手順の説明）
6	自己リフレクション記述による中心的意味や知見の抽出のワーク 2
7	自己リフレクション記述による中心的意味や知見の抽出のワーク 3
8	自己リフレクション記述に基づいた実習経験に関する報告 1
9	自己リフレクション記述に基づいた実習経験に関する報告 2
10	ワークシートを用いた事例検討 1
11	ワークシートを用いた事例検討 2
12	ワークシートを用いた事例検討 3
13	事例検討報告 1
14	事例検討報告 2
15	まとめ

評価

ロールプレイ実施後の自由記述および自己リフレクション記述のためのワークシートを中間レポートとして評価（40％）する。また最終レポートとして、事例検討のためのワークシートの提出を求める（60％）。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】とくに使用しない。

【推薦書】

社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 白澤政和 福山和女 石川久展編『社会福祉士 相談援助演習』中央法規 2009
澤伊三男編集代表『ソーシャルワーク実践事例集』明石書店 2009

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。授業内容は他の相談援助演習の科目とも関連している。、本演習は原則社会福祉実習後に行い、実習科目との関連も重視しつつ、相談援助の知識と技術の総合的・統合的な学習を目指す。

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。

自らの主要な実習経験を振り返り意味づけることができる。自らの主要な実習経験をロールプレイや自己リフレクション記述を用いて再構成しとらえなおすことができる。実習経験の振り返りから得た自らの個別的な意味づけや知見を、既存の相談援助あるいは社会福祉一般の知識や技術と関連してとらえなおし考察することができる。

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

1	オリエンテーション
2	ロールプレイを使った実習場面の再構成 1（ねらいと手順の説明）
3	ロールプレイを使った実習場面の再構成 2
4	ロールプレイを使った実習場面の再構成 3
5	自己リフレクション記述による中心的意味や知見の抽出のワーク 1（ねらいと手順の説明）
6	自己リフレクション記述による中心的意味や知見の抽出のワーク 2
7	自己リフレクション記述による中心的意味や知見の抽出のワーク 3
8	自己リフレクション記述に基づいた実習経験に関する報告 1
9	自己リフレクション記述に基づいた実習経験に関する報告 2
10	ワークシートを用いた事例検討 1
11	ワークシートを用いた事例検討 2
12	ワークシートを用いた事例検討 3
13	事例検討報告 1
14	事例検討報告 2
15	まとめ

評価

ロールプレイ実施後の自由記述および自己リフレクション記述のためのワークシートを中間レポートとして評価（40％）する。また最終レポートとして、事例検討のためのワークシートの提出を求める（60％）。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】とくに使用しない。

【推薦書】

社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 白澤政和 福山和女 石川久展編『社会福祉士 相談援助演習』中央法規 2009
澤伊三男編集代表『ソーシャルワーク実践事例集』明石書店 2009

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。授業内容は他の相談援助演習の科目とも関連している。、本演習は原則社会福祉実習後に行い、実習科目との関連も重視しつつ、相談援助の知識と技術の総合的・統合的な学習を目指す。

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。

自らの主要な実習経験を振り返り意味づけることができる。自らの主要な実習経験をロールプレイや自己リフレクション記述を用いて再構成しとらえなおすことができる。実習経験の振り返りから得た自らの個別的な意味づけや知見を、既存の相談援助あるいは社会福祉一般の知識や技術と関連してとらえなおし考察することができる。

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

1	オリエンテーション
2	ロールプレイを使った実習場面の再構成 1（ねらいと手順の説明）
3	ロールプレイを使った実習場面の再構成 2
4	ロールプレイを使った実習場面の再構成 3
5	自己リフレクション記述による中心的意味や知見の抽出のワーク 1（ねらいと手順の説明）
6	自己リフレクション記述による中心的意味や知見の抽出のワーク 2
7	自己リフレクション記述による中心的意味や知見の抽出のワーク 3
8	自己リフレクション記述に基づいた実習経験に関する報告 1
9	自己リフレクション記述に基づいた実習経験に関する報告 2
10	ワークシートを用いた事例検討 1
11	ワークシートを用いた事例検討 2
12	ワークシートを用いた事例検討 3
13	事例検討報告 1
14	事例検討報告 2
15	まとめ

評価

ロールプレイ実施後の自由記述および自己リフレクション記述のためのワークシートを中間レポートとして評価（40％）する。また最終レポートとして、事例検討のためのワークシートの提出を求める（60％）。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】とくに使用しない。

【推薦書】

社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 白澤政和 福山和女 石川久展編『社会福祉士 相談援助演習』中央法規 2009
澤伊三男編集代表『ソーシャルワーク実践事例集』明石書店 2009

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	大山 博幸、片居木 英人、栗原 直樹、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会福祉士受験資格習得課程の科目である。社会福祉実習の事前学習及び事後学習を本科目で実施する。

相談援助実習の意義について理解する。個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。事前学習の成果として実習課題を作成することができる。

内容

1	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
2	相談援助にかかわる知識と技術に関する理解
3	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解1
4	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解2
5	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解3
6	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解4
7	実習課題（目標）と実習計画作成の方法 1
8	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 1
9	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 2
10	「実習記録ノート」への具体的記述方法と管理の仕方
11	個人情報保護と守秘義務の理解
12	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 1
13	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 2
14	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 3
15	まとめ、実習に向けての確認

評価

事前学習の成果である事前報告書（40%）や実習後の事後報告書の提出及び実習報告会での報告（60%）を求める。それらを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	大山 博幸、片居木 英人、栗原 直樹、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

社会福祉士受験資格習得課程の科目である。社会福祉実習の事前学習及び事後学習を本科目で実施する。

相談援助実習の意義について理解する。個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。事前学習の成果として実習課題を作成することができる。事後学習の成果として実習報告書を作成することができ、報告会で報告することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 1
3	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 2
4	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 3
5	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 1
6	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 2
7	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 3
8	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 4
9	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 5
10	実習報告会の実施
11	2 回目の実習に関するオリエンテーション
12	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 1
13	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 2
14	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 3
15	まとめ、実習に向けての確認

評価

事前学習の成果である事前報告書（40%）や実習後の事後報告書の提出及び実習報告会での報告（60%）を求める。それらを総合的に評価し、60点以上を合格とする。」

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編 『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著 『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	大山 博幸、片居木 英人、栗原 直樹、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会福祉士受験資格習得課程の科目である。社会福祉実習の事前学習及び事後学習を本科目で実施する。

相談援助実習の意義について理解する。個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。事後学習の成果として実習報告書を作成することができ、報告会で報告することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 1
3	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 2
4	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 3
5	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 1
6	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 2
7	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 3
8	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 4
9	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導 5
10	グループスーパービジョン：実習報告会のプレゼンテーション準備と指導 1
11	グループスーパービジョン：実習報告会のプレゼンテーション準備と指導 2
12	実習報告会の実施
13	実習全体の振り返り 1
14	実習全体の振り返り 2
15	まとめ

評価

実習後の事後報告書の提出（60％）と実習報告会での報告（40％）を求める。それらを総合的に評価し60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	介護と地域		
担当教員名	松山 義夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目はケアワーカーが高齢者支援にあたり必要とされる地域福祉や地域連携の全般について事例を通しながら実際に学ぶものでソーシャルワークの専門科目の「地域福祉論 」、「地域福祉論 ）」とも関連性があります。

科目の概要

講義では地域というものは何であるかを考え、地域福祉サービスの組織を実際的に理解し、障害者・高齢者の地域連携や支援のあり方について学びます。また日本とデンマークの高齢者福祉の比較を試みます。

学修の目標

地域福祉の理念を理解する

地域の高齢者支援体制と連携を理解する

福祉先進国との比較により日本の福祉の位置を確認する

内容

1	介護と地域とは
2	介護サービスの概要（1）介護保険制度
3	介護サービスの概要（2）ケアプラン・ケアマネジメント
4	地域福祉の理念（ノーマライゼーション）とは
5	地域福祉サービスの担い手
6	地域連携の理解
7	地域の社会資源と地域連携
8	社会福祉協議会
9	地域包括支援センター
10	高齢者介護施設
11	過疎地の高齢者と地域課題
12	過疎地の地域連携・ボランティア活動
13	デンマークの介護福祉士教育
14	デンマークの高齢者福祉事情
15	まとめ

評価

レポート（30%）、通常の授業態度（20%）、試験（50%）により評価を行い60%以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書・辞典等】社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座第9巻『地域福祉の理論と方法』第2版
中央法規株式会社、日本地域福祉学会編集『地域福祉辞典』
必要に応じて随時教室で資料を配布します。

科目名	生活支援技術展開		
担当教員名	杉浦 史晃		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護サービスの目的は、支援の対象となる人々がいきいきと生きがいを感じながら生きることができるように、生活全体を活性化することです。そのために介護に携わる専門職には、要介護者がやすらぎやふれあいの心地よさを感じ、生活を明るく楽しく過ごせるように支援する視点と、技能が必須となります。本科目では、社会福祉サービスにおけるレクリエーションの意味と価値を明らかにするとともに、介護に携わる専門職として身につけるべき、利用者の笑顔や会話を引き出すコミュニケーション技法等について演習を織り交ぜながら学びます。

学修目標は次の通りです。

- 1-笑い、笑顔の効用を理解する。
- 2-豊かなコミュニケーションを実現するための方法を理解し、それを身につける(られるよう努力する)。
- 3-介護とはよりよい生活を支援するひとつの方法であることを理解し、その人の社会生活力を引き出すための介護者の働きかけについて探求する。

内容

1	ふくしとは=ふつうのくらしのしあわせを実現すること。普通の暮らしの幸せとは？
2	介護現場の余暇支援、レクリエーション支援を検証する。それは本当に必要か？
3	様々な施設、障害形態別のレクリエーションの実際、素材研究1
4	リハビリテーションや訓練は要介護者の生活に必要なか？
5	様々な施設、障害形態別のレクリエーションの実際、素材研究2
6	知らない人に介護されたい？ 人と人が深く知り合っていくために必要な過程とは何か？
7	人と人が「ともにある」とはどういうことか？ 共感の仕組みを理解しよう
8	廃用症候群、廃用型認知症を考える。意欲ある生活を支える元気な脳の状態とは？
9	あなたがフローを感じるのはどんな時？ フロー理論を理解しよう
10	介護者が身につけるべきコミュニケーション技術や人間関係能力を検討する
11	コミュニケーション技術、人間関係能力をさらに深める
12	良いところ探しの技術
13	様々な施設、障害形態別のレクリエーションの実際、素材研究3
14	様々な施設、障害形態別のレクリエーションの実際、素材研究4
15	まとめ

評価

筆記・実技試験(40点)、毎時間ごとのふりかえり(30点)、授業態度(30点)を評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 園田碩哉監修 『介護福祉 実践ブック レクリエーションの援助』 共栄出版株式会社 およびプリント配布

【推薦書】『第3版 レクリエーション活動援助法』 中央法規

科目名	生活支援技術展開		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

介護は身体や精神に障害があっても、その人らしい生活をできる限り尊重して自立できるように最小限の援助を行うことが基本である。生活支援技術演習 ・ ・ ・ で学んだ生活援助の技術をさらに発展させ、自立を目指す応用介護技術を学ぶ。特に慢性疾患を持ちながら生活している利用者の自己管理や、医療対応の基礎知識および緊急時対応からターミナル期の介護にいたるまでの、必要な知識技術をもち、適切な援助ができることを目指している。

内容

1	ガイダンス
2	国際福祉機器展(自立と介護負担軽減を目的として)
3	内部障害「心臓機能障害」に応じた介護
4	内部障害「呼吸機能障害」に応じた介護
5	内部障害「腎臓機能障害」に応じた介護
6	内部障害「膀胱・直腸機能障害」に応じた介護
7	内部障害「小腸機能障害・肝機能障害・免疫機能障害」に応じた介護
8	医療との連携に必要な「薬の基礎知識」「治療食の基礎知識」
9	医療的ケアの基礎知識（吸引、経管栄養他）
10	緊急時の対応1（応急手当、事故とその対応）
11	緊急時の対応2（心肺蘇生の知識と実践）
12	終末期の介護（終末期における介護の意義・目的）
13	臨終時の介護の実際、医療との連携
14	死後のケア、グリーフケア
15	まとめ

評価

学習状況・レポート提出状況（40%）、ペーパーテスト（60%）により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術 . 』 中央法規

【参考図書】適宜紹介

科目名	介護過程展開		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

[授業の目的・ねらい]

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うことがねらい。

特に障害者介護の現場での実践的展開を理解する。

[授業全体の内容の概要]

障害者介護における介護過程の実践的展開を理解させる。各自の作成した介護計画をグループワークにおいて検証、考察し、さらに理解を深める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

障害者介護における介護過程の展開について説明できるようになる。

介護過程の展開について実習等で展開できるようになる。

命を支える介護の役割を考え、自己課題を明らかにできる。

内容

1	介護過程の実践的展開（障害者）総論
2	障害者介護における介護過程の展開の実際 生活とは
3	障害者介護における介護過程の展開の実際 自立の視点
4	介護過程の展開の実際 必要な情報収集し、事項を関連付け整理する
5	介護過程の展開の実際 アセスメント
6	介護過程の展開の実際 課題抽出の視点と方法
7	介護過程の展開の実際 介護計画作成、評価、再アセスメント
8	知的障害者支援における介護過程の展開の実際 生活とは
9	知的障害者支援における介護過程の展開の実際 自立の視点
10	介護過程の展開の実際 必要な情報収集し、事項を関連付け整理する
11	介護過程の展開の実際 アセスメント
12	介護過程の展開の実際 課題抽出の視点と方法
13	介護過程の展開の実際 介護計画作成、評価、再アセスメント
14	事例発表
15	まとめと振り返り

評価

学習状況・レポート提出状況（50%）、ペーパーテスト（50%）により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：介護福祉教育研究会「改訂版 楽しく学ぶ介護過程」久美出版

推薦書：澤田信子等編「介護過程」ミネルヴァ書房

適宜、資料配布

科目名	介護サービス計画		
担当教員名	中島 園恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、介護支援専門員（ケアマネジャー）が作成する介護サービス計画について学ぶ科目です。

講義では、介護サービス計画を作成する前に必要となるアセスメントから、看護・介護等のサービス提供者が作成する個別サービス計画との関係までを、介護支援サービスの構造と過程から総合的に学びます。

学修目標は、次の3点です。

介護サービス計画ならびに個別サービス計画に共通するアセスメントの視点と方法について理解することができる。

介護サービス計画と個別サービス計画の関係を理解することができる。

介護保険制度における介護サービス計画と個別サービス計画の現状と課題について理解することができる。

内容

1	生活を総合的に捉える視点とは何か
2	アセスメントの目的・枠組み・方法
3	アセスメントの実際
4	アセスメントの事例
5	アセスメントの事例
6	介護保険制度に位置づけられた介護支援サービス
7	介護保険制度の給付構造
8	施設と在宅の違い
9	介護サービス計画・個別サービス計画とは何か
10	介護サービス計画の作成(1)
11	介護サービス計画の作成(2)
12	介護サービス計画の作成(3)
13	介護サービス計画の作成(4)
14	介護サービス計画の作成(5)
15	まとめ

評価

平常点（1割）、小レポート2回（2割）、期末レポート（7割）による総合評価とし、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

生活アセスメント研究会編『福祉・介護に求められる生活アセスメント』中央法規出版株式会社、2007年

【参考図書】教室で紹介します。

科目名	介護実習 - 2		
担当教員名	新井 幸恵、中村 幸子、野島 靖子、宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

最終段階の介護福祉実習である

科目の概要

利用者ひとりひとりの生活リズムや個性を理解するという観点から、利用者の生活史の理解、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、相談援助職をはじめ多職種との協働を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の生活課題とその解決を図るために利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価・修正を含む介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

ケアワークとソーシャルワークの統合を図る視点から、介護実践にかかわる社会保障制度、施設経営、人材育成、関係機関との連携等社会的な課題に触れ、その概況を理解する。

内容

[授業全体の内容の概要]

- ・実習施設・事業等 の学外施設実習（合計23日間）

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者主体の実践を体得する。利用者の生活課題の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族等との関わりを通じたコミュニケーションの実践ができる。

夜勤業務を含め介護職の業務の流れが理解できる。

多職種協働の実践的役割を理解する。

介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護福祉士としての一連の介護過程の実践ができる。

。

利用者および介護施設を巡る社会保障制度の現状と課題を学ぶ。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

実習施設・事業等 に区分される事業所での学外施設実習

- ・3年生集中 介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者療養施設等の入所施設

合計23日間（184時間）

評価

実習状況、記録物、教員との面接、実習施設による評価等により、総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学内作成「実習の手引き」

科目名	介護総合演習		
担当教員名	新井 幸恵、中村 幸子、野島 靖子、宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

[科目の性格]

介護実習の学習効果を上げるため、実習施設の理解、利用者にふさわしい介護技術、施設のオリエンテーション、実習の進行、巡回指導の受け方、実習後の事例研究手法等を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

実習と組み合わせた学習とし、介護実習の意義、介護実習施設の特徴、教員や実習指導者からの支援の活用、介護実習に必要な知識や技術等について理解する。また介護実習についての自身の学習課題と学習成果を明確化する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

実習に必要な基本的な知識や技術が理解できる。

介護施設の概要、利用者の生活像、利用者主体の支援のあり方、介護福祉士の役割について理解できる。

個々の介護実習 - 1における学習課題が明確になる。また実習に伴う心身の動揺をコントロールできる固有の方法を会得する。

内容

1	介護実習 - 1の事後指導（全体およびグループ）
2	介護実習 - 1の実習報告会
3	介護実習 - 2とは何か
4	実習における介護過程の展開（情報収集）
5	実習における介護過程の展開（個別介護計画）
6	実習における介護過程の展開（実施と評価）
7	介護実習 - 2の実習施設理解
8	介護実習 - 2の実習目標の立て方
9	介護実習 - 2の実習計画の立て方
10	介護実習 - 2の実習計画を立てる
11	介護事例研究（ケーススタディ）の理解
12	介護実習 - 2に向けたグループ指導
13	介護実習 - 2に向けたグループ指導
14	実習オリエンテーションに向けた確認
15	実習前報告会

評価

課題レポート、実習に関する記録物、教員との面接により総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「ケーススタディをはじめよう！介護事例研究の手引き」日総研

科目名	介護総合演習		
担当教員名	中村 幸子、新井 幸恵、野島 靖子、宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：前期「介護総合演習」、「介護実習 - 2」を受けて、施設で実習した介護の全過程を明らかにし、ケーススタディとしてまとめる。

また1年から3年までの講義・演習・実習の学習を通して、実践的総合的な知識や支援技術の到達度を明らかにし、自己課題を明確にする。

科目の概要：

1. 利用者の自立（律）を支える介護実践の必要を、 - 2 実習の学びから体得する。
2. 1年から3年までの介護実習（施設実習・在宅実習）を通じ、これまで学んできた知識、理論、技術、思考、態度を考察し、自己課題を抽出する。
3. 介護過程の学習経過をケーススタディとしてまとめ、結果を実習報告会で発表する。
4. これらを通じて介護福祉士としての自己成長をみつめ、介護福祉士としての専門性を深め、社会的役割を理解する。

内容

1. 利用者、家族、関連職種、実習指導者等の指導助言を受け、介護実習計画に基づき介護を実践する。
2. 帰校日で、介護過程や支援技術の実施など、教員の指導助言を受ける。
3. 実習後は 実習の全過程を考察する。とりわけ介護過程実施からの学びを軸に、介護福祉士としての自己覚知を深め、自己課題を明らかにする。
4. 介護過程をケーススタディとしてまとめ、実習報告会で発表、実習指導者や学生相互の評価を得る。
5. 発表態度・内容やケーススタディ報告会全般に関する評価を受け考察を深める。

評価

課題レポート、実習に関する記録物、教員との面接により、総合的に判断し60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

和田要他編「介護事例研究の手引き」日総研

【推薦書】

「すぐに役立つ事例のまとめ方と発表のポイント」中央法規
介護福祉教育研究会編「楽しく学ぶ介護過程」kumi

科目名	社会福祉実習		
担当教員名	大山 博幸、片居木 英人、栗原 直樹、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。指定された実習施設で各自180時間以上の実習を実施する。相談援助実習指導の科目と関連して学習していく。

相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

実習先での利用者や職員との円滑な人間関係を形成できる。実習中対象となった利用者への支援計画を作成することができる。実習先でのチームアプローチの実際についてとらえその概要を説明することができる。社会福祉士として要請される職業倫理について具体的な事例を参照して説明することができる。当該実習先の経営管理の実際状況について理解し、具体的な事例を参照して説明することができる。当該実習先とその地域の諸社会資源との関連について理解し、説明することができる。

内容

- 1利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- 2利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- 3利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
- 4利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護および支援（エンパワメントを含む）とその評価
- 5多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
- 6社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- 7施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
- 8当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解。

評価

実習指導者による実習評価や巡回時の学生の様子、実習指導者からのコメントを元に総合的に評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂
川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	社会福祉実習		
担当教員名	大山 博幸、片居木 英人、栗原 直樹、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必,必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。指定された実習施設で各自180時間以上の実習を実施する。相談援助実習指導の科目と関連して学習していく。

相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

実習先での利用者や職員との円滑な人間関係を形成できる。実習中対象となった利用者への支援計画を作成することができる。実習先でのチームアプローチの実際についてとらえその概要を説明することができる。社会福祉士として要請される職業倫理について具体的な事例を参照して説明することができる。当該実習先の経営管理の実際状況について理解し、具体的な事例を参照して説明することができる。当該実習先とその地域の諸社会資源との関連について理解し、説明することができる。

内容

- 1利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- 2利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- 3利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
- 4利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護および支援（エンパワメントを含む）とその評価
- 5多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
- 6社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- 7施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
- 8当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解。

評価

実習指導者による実習評価や巡回時の学生の様子、実習指導者からのコメントを元に総合的に評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂
川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	人間福祉特論 A (基礎)		
担当教員名	宮城 道子、宮内 寿彦、大山 博幸、新井 幸恵 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間福祉学科教員によるオムニバス講義、社会福祉を学んできた学生にとってまとめとなる有益な選択科目である。

3年次までの学びに基づき、社会福祉の体系的理解のための講義を行う。社会福祉関連学会や研究の動向、トピックスについて講義する。

福祉専門職に求められる資質を理解し、今後の成長の糧とする。

内容

1	オリエンテーション (宮城)
2	現代介護への視座 - 介護行為の変遷と介護福祉専門職の専門化に関する一考察 (宮内)
3	現代介護への視座 - 介護行為の変遷と介護福祉専門職の専門化に関する一考察 (宮内)
4	現代介護への視座 - 介護行為の変遷と介護福祉専門職の専門化に関する一考察 (宮内)
5	関係を生きるふくしびと - 機能人としての援助者から人間としての援助者へ (大山)
6	ケアする人としてのふくしびと - 反省する実践家から傷ついた癒し手モデルへ (大山)
7	成長するふくしびと - 自己覚知を促進するアプローチ演習指導、職員指導の指導 (大山)
8	認知症ケアの今 (新井)
9	過疎山間集落の人々に学ぶ (新井)
10	あたらしい精神障害者の地域支援 (新井)
11	子育て支援と児童相談をどのようにみるか (栗原)
12	社会的養護への視点 (栗原)
13	子どもの権利と親権を考える (栗原)
14	統計法改正と社会福祉調査 (宮城)
15	最新統計データにみる福祉の動向 (宮城)

評価

講義の中から関心をもったテーマについてレポートを提出する。テーマの担当教員が採点し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書は適宜紹介する。適宜プリントを配布する。

科目名	人間福祉特論 B (展開)		
担当教員名	太田 真智子、中村 幸子、佐藤 陽、野島 靖子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間福祉学科教員によるオムニバス講義、3年間の学びのまとめとなる有益な選択科目である。

前期の人間福祉特論での学びを更に発展させ、社会福祉の体系的理解のための講義を行う。社会福祉関連学会や研究の動向、トピックスについて講義する。

従来の学修を展開させ幅広く深く福祉を学ぶ事で社会人としての豊かな成長に寄与する

内容

1	オリエンテーション (太田)
2	社会福祉を推進した人々からのメッセージ (太田)
3	地域福祉の視座-自らの実践を検証の考察から普遍化への試み- (佐藤)
4	地域福祉実践の醍醐味-計画づくりを具体的実践に繋ぐ- (佐藤)
5	地域福祉を支える福祉教育-地域福祉教育推進プラットフォームの構築- (佐藤)
6	人間の健康な成長・発達 (老化を含む) を理解する (中村)
7	人間の健康な成長・発達 (老化を含む) に支障をきたした状態を理解する (中村)
8	健康に支障をきたした人への支援について、福祉職の役割を理解する (中村)
9	認知症対応型グループホームから始まった小規模ケアの在り方 (野島)
10	認知症高齢者ケアと質の確保について (野島)
11	生活保護施設の現状と実態 (野島)
12	人間の条件 ~多数性と個別性~ (横山)
13	傾聴の系譜とボランティア (横山)
14	障害を持つ人々からのメッセージ -新法移行への動向を含めて- (太田)
15	まとめ (太田)

評価

各教員の講義から関心を持ったテーマについてレポートを提出する。テーマの担当教員が採点し60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書は適宜紹介する。適宜プリントを配布する。

科目名	介護基礎（入門）		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：「高齢者に対する支援と介護保険制度1」、「同」、「保健医療サービス論」とは制度的な理解を共通とし、認知症高齢者の理解や介護を計画的に考える介護過程の作成などと連動する。また、「医学一般」「障害者福祉論」とは介護を提供する当事者の理解を進めるために相互に関連し合う。「家政学演習」とは更に家事援助に関連する密接な科目である。「社会福祉実習」等でこれらが活かされるよう具体的な生活支援技術を学ぶ。

科目の概要：高齢化が進行する社会では、高齢者も障害を持ち身体的、心理的、社会的なニーズが増す。学生自身の家族や自身の体験から、障害の種別を超えて介護への経験も増してきた。しかし、当事者は介護を受ける客体ではなく人生の主体として、生活への支障を持ちながらも生き生きと暮らすことを望んでいる。介護技術が生きる意欲を励まし、暮らしを豊かにする手立てとして有効に活用できるよう、年齢特性、障害特性や様々な社会的特性に応じた生活支援技術を学ぶ。

- 学修目標：1) 介護に寄せる当事者の暮らしのニーズを理解する
 2) 当事者の自立への意思を尊重した生活支援技術のプロセスを習得する
 3) 環境の整備、身支度、家事支援に関する支援技術を習得する

内容

1	オリエンテーション 介護福祉の基礎は当事者の暮らしの理解とコミュニケーション
2	介護を必要とする人々の暮らしの理解 介護福祉の諸分野
3	支援技術の価値とその視点 1 ICFの視点、当事者主体、生活文化の視点
4	支援技術の価値とその視点 2 移動支援に見る当事者体験
5	介護支援技術の基礎 1 自立に向けた居住環境福祉の視点
6	介護支援技術の基礎 2 寝室の整え
7	介護支援技術の基礎 3 安楽の体位
8	身支度の支援技術1 利用者の尊厳を支えるアセスメント
9	身支度の支援技術2 衣服の選択・着脱の支援
10	家事支援技術 1 在宅介護の法制度と諸分野
11	家事支援技術 2 車いすの活用
12	介護とレクリエーション支援 1 期待される諸分野
13	介護とレクリエーション支援 2 さまざまな障害を持つ当事者体験
14	振り返り
15	まとめ

評価

提出物30点 筆記試験70点 60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：柴田範子「生活支援技術1」ミネルヴァ

推薦書：井上千津子編「介護の基本」ミネルヴァ

社会福祉法人共同福祉会「介護の基本」クリエイツかもがわ

科目名	介護基礎（応用）		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人間の自然なからだの動きを理解し、身体機能の低下や障害が、日常生活に与える影響を理解する。
さらに援助を要する人の自立・自律を尊重した、安全かつ適切な介護技法について理解するとともに、
尊厳を支える介護について実践をめざす。

内容

1	ガイダンス、介護技術を学ぶ意義
2	介護者の健康管理：健康な心身と生活について理解する。ボディメカニクスの活用
3	移動の意義と目的、移動に関するアセスメント、ICFの視点
4	移動介助の技法・留意点
5	食事の意義と目的、食事に関するアセスメント、介護技術の原則
6	食事介助の技法および誤嚥時の対応
7	入浴・清潔保持の意義と目的、入浴・清潔保持に関するアセスメント、ICFの視点、
8	入浴・清潔保持の技術の原則、介助・清潔保持の介助の技法・留意点
9	排泄の意義と目的、排泄に関するアセスメント、技術の原則
10	排泄介護の技法・留意点（オムツの適切な活用法）
11	睡眠の意義と目的、睡眠に関するアセスメント、ICFの視点
12	睡眠に関する介護技術
13	終末期における介護の意義と目的、高齢者の尊厳を支える介護
14	終末期介護の基礎知識
15	まとめ

評価

試験60点,レポート20点,平常点20点, 60点以上合格

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

柴田範子編 介護福祉士養成テキストブック「生活支援技術」ミネルヴァ書房

科目名	公的扶助論		
担当教員名	長友 祐三		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

公的扶助は社会保障制度の一環として、社会保険とともに国民の経済保障機能を有するもので、わが国の場合、生活保護制度がこれに該当する。生活保護制度は国民を守る最後の砦(セーフティネット)として、各種社会福祉・社会保障プログラムの中でも他に例を見ない精緻な考え方と仕組みを有している。また多くの社会福祉サービスは本制度を母体として誕生している。

本講では、公的扶助(生活保護)の諸外国及び日本での沿革、現代社会における理念と意義、制度の原理・原則とその仕組み、最近の動向及び現実的課題などを紹介し、最低生活保障における所得給付と社会福祉サービスとは何かを学ぶ。

内容

- 1 貧困の概念について理解する。
- 2 貧困・低所得問題の現状について理解する。
- 3 公的扶助の概念・範囲・定義などにつき、社会保険や社会福祉などとの対比において理解する。
- 4 海外とわが国における公的扶助の歴史について学習する。
- 5 福祉事務所と生活保護の実施体制について学ぶ。
- 6 生活保護の目的および基本原理・原則について理解する。(1)
- 7 生活保護の目的および基本原理・原則について理解する。(2)
- 8 生活保護の目的および基本原理・原則について理解する。(3)
- 9 生活保護の種類とその内容・方法について学習する。
- 10 生活保護における基準の意義とその具体的内容について理解する。
- 11 低所得者対策の概要(生活福祉資金・社会手当)を学ぶ。
- 12 ホームレス対策の現状と課題を学ぶ。
- 13 生活保護制度における相談援助活動について理解する。(1)
- 14 生活保護制度における相談援助活動について理解する。(2)
- 15 生活保護における自立支援について理解する。

評価

小レポート3回(30%)と期末レポート(70%)による総合評価とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

新社会福祉士養成「低所得者に対する支援と生活保護制度」(中央法規)2011

科目名	公的扶助特論		
担当教員名	長友 祐三		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

公的扶助は社会保障・社会福祉制度の一環として、社会保険とともに国民の経済保障機能と社会福祉サービス機能を有するもので、わが国の場合、生活保護制度がこれに該当する。

本講義では、最近の生活保護の動向及び生活保護制度における現実的課題などを紹介し、最低生活保障における給付と社会福祉の援助・支援とは何かをソーシャルワークの視点から理解する。また、事例を通して、生活保護の制度運営と制度運用の現状と課題についても学ぶ。

本講義の履修にあたっては、原則として公的扶助論が履修済みであること。

内容

- 1 貧困をどうとらえるか
- 2 貧困問題とは何か
- 3 貧困と社会的排除について考える
- 4 貧困とセーフティネットについて考える
- 5 福祉国家と公的扶助制度の形成
- 6～7 生活保護法の理念と原理を学ぶ
最低生活保障とは何か
- 8～9 生活保護法の理念と原理を学ぶ
自立の助長とは何か
- 10 公的扶助制度におけるスティグマの検討
- 11 公的扶助制度におけるアウトリーチの検討
- 12 公的扶助ソーシャルワークの実際
- 13 公的扶助ソーシャルワークの実際
- 14 公的扶助ソーシャルワークの実際
- 15 公的扶助ソーシャルワークをめぐる諸課題

評価

小レポート3回（30%）と期末時のレポート（70%）による総合評価

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

前期「公的扶助論」で使用した教科書を使います